

国際協力特別賞

よりよい未来へと

埼玉大学教育学部附属中学校 1年

清水 英里香

最近、外国の方を身近なところで見かけることがとても多くなりました。私の母はタイ人で、日本で行われているタイのイベントなどにもよく参加するので、より多くの外国人と交流していると思います。一昔前では考えられなかったことかもしれませんが、今となっては、クラスに一人外国人がいて当たり前、ということもあります。仕事で日本に住んでいるという方も、少なくはないのでしょうか。でも、外国人の方が、必ずしも日本語を話せるわけではありません。

私は、外国人の母をもち、苦労したことがいくつかあります。一つは、日本の話、難しい国語の問題の話などができません。私は歴史の話が好きなので、その話題で話したいけれど、母は日本の歴史をととても深く学んでいる訳ではないので、話が通じないことがあります。二つ目は、日本人の名前ではない、ということです。私は普通でも、母の名前が書かれるときに、見立ちます。名前で笑われたりすることはないのですが、そのような場面は多くあります。

日本人の母、に憧れたことが何度もあります。お母さんに勉強を教えてもらったりする人を見ると、とても羨ましいな、と思います。でも、私の母は、日本のことは分からなくても、タイのことや、英語などを、たくさん教えてくれます。他の人にはできないようなことをたくさんさせてくれます。私は、日本にとらわれすぎているのだと思います。学校の人たちのように、同じではないというのは、むしろ自慢できることだと思います。でも、母も、日本のことを理解しようと、とても頑張っています。外国人だから大したことができない、という偏見を持たれがちだと、母は言います。でも、母のおかげで、こうして受験にも合格することができました。外国人だから、外国人だし、という考え方は間違っていると思います。だからこそできることだってたくさんあります。家庭によって教育方針が違うのと同じだと思います。

これからも、もっと多くの外国人が日本に来ると思います。さらに、オリンピックも控えています。ですが、そこで来られた外国の方に、その国の偏見を持っていたりしては、交流など、とてもできません。その国の文化をきちんと受けとめ、理解し、互いに気持ちの良い交流ができれば、これからの未来が、よりよいものになるのだと思います。